

[成果情報名]醸造用ブドウ「甲州」の短梢剪定栽培における整枝法別の特性

[要約]「甲州」の棚仕立て短梢剪定において、WH型整枝は、早期の樹形完成は難しいものの、一文字整枝およびH型整枝と比較して新梢管理等の管理作業時間が少なく、省力的に栽培でき、糖度も高い。

[担当]山梨県果樹試験場・栽培部・醸造ブドウ栽培科・太田佳宏

[分類]技術・参考

[課題の要請元]

果樹・6次産業振興課、部門別農業代表者、山梨県ワイン酒造組合

[背景・ねらい]

日本ワインの消費拡大に伴い、主要品種である「甲州」の生産拡大が求められているが、生産者の高齢化などにより生産量は減少傾向となっている。そこで、作業が単純で、省力的に栽培できる短梢剪定栽培において、整枝法別の特性を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 一文字整枝は樹齢5年生、H型整枝は7年生、WH型整枝は8年生でほぼ樹形が完成する(表1・図1)。
2. 10aあたりに換算した初期収量は、一文字整枝では多く、WH型整枝では少なくなる(図2)。そのため、初期収量を求める場合は、一文字整枝を間伐樹として利用する必要がある。
3. 夏季剪定量は、WH型整枝が少なく、一文字整枝が多い。そのため新梢管理時間は、WH型整枝が少ない(表2)。
4. 棚仕立て短梢剪定において、WH型整枝は糖度が高く、果実が枯死する‘つるひけ症’の発生がやや少ない(表3)。

[成果の活用上の留意点]

1. 本成果は、果樹試験場明野試験地(北杜市明野町:標高710m)の肥沃な火山灰土壌における特性である。
2. 本試験では樹冠拡大を早期に行うため、苗木から発生した新梢が棚面に展開する際に摘心を行い、副梢を用いて第1主枝、第2主枝を同時に配置した結果である。
3. 節間が長い品種であるため、目標収量を確保するには、1芽座から複数の新梢を配置し、着房数を調整する。

[期待される効果]

短梢剪定栽培における特性が明らかとなり、醸造用「甲州」を生産する際の参考資料となる。

[具体的データ]

表1 整枝法別の樹形の完成率および収量の推移 (2019~2023)

整枝法	樹形の完成率(%) ^z					収量(kg/樹)				
	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生
一文字	50	92	100	100	100	2	41	41	64	64
H型	12	41	76	95	100	0	45	53	125	131
WH型	2	12	42	67	88	2	30	58	165	192

z) 目標の主枝長 (一文字: 主枝長18m, H型: 主枝長18m×2本, WH型主枝長: 18m×4本) に対する割合

※グロワール台, 供試系統: KW05

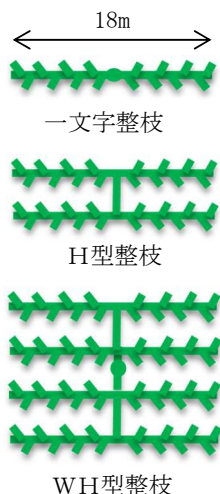


図1 各整枝法別の樹形

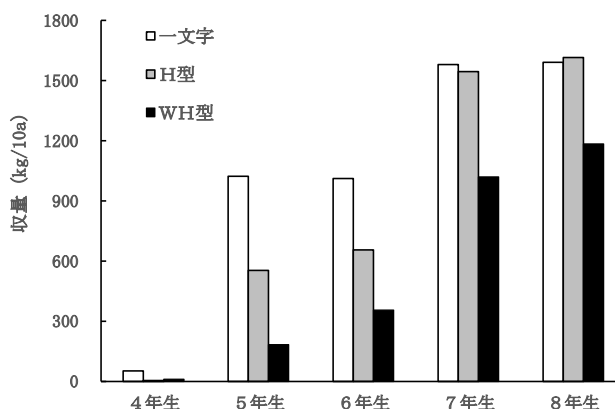


図2 整枝法別の収量の推移 (2019~2023)

10a当たりの栽植本数: 一文字(25樹/10a), H型(12樹/10a), WH型(6樹/10a)

表2 整枝法別の夏季剪定量の推移と新梢管理にかかる作業時間

整枝法	夏季剪定量(kg/10a)					作業時間 ^z (h/10a)
	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	
一文字	162	281	636	549	881	70.5
H型	83	188	357	344	358	53.2
WH型	26	79	161	163	173	48.0

z) 作業員5名による平均作業時間(2023)

誘引: (6/19~6/20, 7/12), 芽かき(7/6), 摘心(7/12), 副梢切除(8/21)

表3 整枝法別の果実品質と‘つるひげ症’発生率 (2021~2023)

整枝法	果房重 (g)	果粒重 (g)	糖度 (°Brix)	酸含量 (g/L)	‘つるひげ症’発生率(%) ^z		
					2021	2022	2023
一文字	215	3.6	15.5	7.8	14	15	1
H型	214	3.6	15.2	8.1	14	21	1
WH型	227	3.5	16.5	8.0	8	16	0

z) 目視により概ね房の1/3が褐変している房を発生果房とした

※追跡調査により果実の酸含量が8~9g/L程度に達した時期, または低下しなくなった時期を基準に果実調査を実施した

[その他]

研究課題名: 「甲州」の簡易で早期成園化が可能な栽培技術の確立

予算区分: 県単 (ワイン産地確立推進事業)

研究期間: 2017~2023年

研究担当者: 太田佳宏、廣瀬文彦、富田晃、宇土幸伸、塩谷諭史、網中麻子、石原雅広、渡辺晃樹、向山佳代